

---

# きえいる君へ

山田 太郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

きえいる君へ

### 【Nコード】

N2597A

### 【作者名】

山田 太郎

### 【あらすじ】

主人公、伊藤 一哉は、小学生の頃コックリさんをしたとき、命を助けてくれた女の幽霊に恋をしてしまう。中学生になった一哉は、変わらずその恋心を持ち続けていた。そしてついに、彼女との再会を果たす一哉、そこで彼女の本当の心を知ることとなる。

## いけない遊び（１）

小さい頃、こんな体験したことがありますか？

「コックリさん、コックリさん、出てきてください．．．。コックリさん、コックリさん、出てきてください．．．。」

誰もいないはずの教室にこだまする声、夕日が窓の外から差し込み、そこにいる子供たちを照らしていた。一つの机を囲む４人の子供たち、机の上には「あいうえお．．．。」と書かれた白い紙、その上に５円玉を置き、４人の人差し指をそつと乗せる．．．。

「コックリさん、コックリさん、出てきてください．．．。」

その言葉を呪文のように繰り返す．．．、子供たちは大人に「やってはいけない」と言われている遊びをやっていた。すでにほとんどの生徒が帰った教室の中で．．．。

「ねえ、もうやめようよ。」

４人の中で一番気の弱そうな男の子が、５円玉の上にある指以外の体をジタバタさせながら、絞り出すような声で言った。すると、向かい側にいる気の強そうな女の子が、

「ダメよ！よけいな事言ったら、コックリさんが帰らなくなるって言ったじゃない！」

と、目を吊り上げながら言い放った。

「でも……。」

気の弱そうな男の子は言い淀んだ。強く言われると逆らえない性格なのだ。しかし、彼は得体の知れない何かを全身で感じていた。

「一哉、トイレでも行きたいのか？」

気の弱そうな男の子の、右側にいた男の子が、やれやれといった表情をしながら言った。

「トイレじゃないよ、なんか……。」

## いけない遊び（１）（後書き）

どうか、気軽に感想、批判などお願いいたします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2597a/>

---

きえいる君へ

2010年10月9日07時47分発行